

第 10 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

1 前回までのテーマに関する参考意見など

棚尾の郵便、棚尾の食、俳句など

2 テーマ 18 「大正天皇大嘗祭の歌碑」 1～4 ページ

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

3 テーマ 19 「棚尾町役場高札舎」 5～7 ページ

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

4 連絡事項・情報交換など

美術館「新収蔵品展」5/13 まで 藤井達吉継ぎ色紙屏風の内、棚尾に関するもの（4 首）

「乳の実の 父に手曳かれ 矢作川 千鳥聞きし ことの思い出」

「春たてば 矢作の川の 川波を 見つつ歩めり 幼き思い出」

「霜深き 朝をまかる 修平先生 思えば楽し 幼き吾よ」

「産土の 神の御庭も 楽しさよ 祭り太鼓の 耳に響こう」

5 次回日程

第 11 回 5 月 23 日（水曜日）午後 7 時から

「秋葉山常夜灯」「棚尾村道路元標」

第 12 回 6 月 20 日（水曜日）午後 7 時から

「折戸の坂」「棚尾村字東浦の分村」

「大正天皇大嘗祭の歌碑」

1 要旨

大嘗祭^{だいじょうさい}は天皇即位後最初の新嘗祭^{にいなめさい}のことで、大正天皇大嘗祭は大正4年（1915）11月に京都仙洞御所で行われた。その献穀米を作る齋田に愛知県と香川県が選ばれた。

この齋事は天皇一代で一度の大祭であり、齋田に選ばれることは大変名誉なことであった。式の中で宮内庁御用係子爵黒田清綱が和歌10首を詠進し、冬の歌としてこの矢作川の和歌が披露された。

2 大嘗祭

大正4年11月10日、大正天皇即位の大典が行われ、続いて、14日即位後初めての新嘗祭である大嘗祭が行われた。京都仙洞御所の庭内に祭場を二箇所、東（左）に悠紀殿、西（右）に主基殿を設け、それぞれ新穀を神前に供する神事である。

京都を中心として、東日本には悠紀齋田、西日本には主基齋田が勅定される。大正天皇大嘗祭では悠紀齋田に愛知県碧海郡六ツ美村中島の早川定之助所有地（現在は岡崎市に編入されている）が、又、主基齋田には香川県綾歌郡綾川町（旧山田町）が勅定された。

尚、岡崎市六ツ美地区では「悠紀の里」として、次のような史跡等を保存・継承している。

- (1) 中島町（旧六ツ美村大字中島字丸の内）計画道路衣浦岡崎線沿いに悠紀齋田地¹が史跡として整備されている。
- (2) 「河原祓いの儀」が行われた、美矢井橋上流左岸の堤防には現在記念碑が建てられている。
- (3) 六ツ美市民センター隣六ツ美民族資料館に記録と使われた装束、器具が保存、展示されている。
- (4) 現在でも、毎年6月第1日曜日に六ツ美悠紀齋田お田植えまつりが行われている。
- (5) 主基齋田（香川県綾歌郡綾川町）保存会との交流行事が行われている。

3 詠進歌及び屏風

奉納された新穀は供饌の儀に用いられ、その儀式の中で稻春歌や風俗歌が奏せられた。その後、参列者をもてなす大饗会がもたれ、風俗舞歌が舞いに合わせて奏でられた。

これらの風俗歌は、宮内省御用係である歌人の子爵黒田清綱が、県下の主だった景勝地を採り上げ、次の10首を詠進した。

稲春歌（神饌調理中に奏する歌）

「八束穂の 垂穂の稲を 刈り積みて 春くや村人 むつみ合いつつ」
(六ツ美村)

悠紀地方風俗歌（大嘗祭供饌の儀式中に奏する歌）

「君が代を 千代もとよはふ 松風の 音の絶えせぬ 音聞の山」
(名古屋八事音聞山)

悠紀地方風俗歌屏風の歌（大饗会会場の屏風に書く歌）

春（桜田霞に鶴）

「年魚市潟 汐みちくらし うちかすむ 桜田さして 田鶴なきわたる」
※ 歌碑 名古屋市南区貝塚町 桜八幡

夏（衣浦新樹に波）

「みどりそふ 森の木の間に見ゆるかな 衣の浦の 波のしらゆふ」
※ 歌碑 新須磨海岸に歌碑があったが、昭和28年十三号台風で倒壊したので、昭和60年氏子崇敬者により大浜熊野神社内に歌碑が建てられた。

秋（亀崎月）

「萬代も かはらぬかけを 亀崎の なみにうかへて 月てりにけり」
※ 歌碑 半田市亀崎町 神前神社裏亀崎城址

冬（矢作川千鳥）

「矢作川 弓張月の かけさして きよき流に 千鳥なくなり」
※ 歌碑 碧南市舟江町 志貴崎橋たもと
〃 岡崎市矢作町 矢作神社入り口矢作川堤防の上

悠紀地方風俗舞の歌（大饗会会場で舞うときに奏する歌）

三音聲（年魚市潟）

「わたつみの 神もほくらし 年魚市潟 知多の浦波 千代の聲して」

※ 歌碑 名古屋市南区岩戸町 白豪寺

楽破（豊明の二村山）

「君が代に よそへてそ見む ときはなる 松と竹との ふた村の山」

※ 歌碑 豊明市沓掛町 二村山頂

楽急（五十良児島）

「君が代の 恵られしみ いらこ島 海士の子らさへ うたふ聲する」

※ 歌碑 田原市 伊良湖神社入り口

退出音聲（豊橋の高師山）

「松風の 声いや高し 高師山 わけてもけふは 千代よばふらむ」

※ 歌碑 豊橋市上野町 高師小学校

尚、皇室の登極令附式「即位礼及び大嘗祭後大饗第一日の儀」に「本殿の北廂に錦軟障（千年松山水図）を設け東北隅に悠紀地方風俗歌の屏風、西北隅に主基地方風俗歌の屏風を立つ」とあり、愛知県及び香川県の名所を絵と歌で紹介したものである。

屏風は高さ 8 尺 5 寸、幅 3 尺の六曲一双にして、野口小蘋女史が描いた、春（桜田霞に鶴）、夏（衣浦新樹に波）、秋（亀崎の月）、冬（矢作川の千鳥）の絵の上部に黒田清綱が和歌四首を揮毫したものである。

黒田清綱（1830～1917）は、鹿児島県出身の子爵。東京府大参事、元老院議員、枢密院顧問、宮内庁御用掛などの要職を歴任した。和歌は格調高い歌風で知られた人で、詠進歌にもその特徴がよく表れている。

又、帝室技芸員小蘋女史野口親子は悠紀地方風俗歌屏風揮毫の命を受け、7 月 10 日視察並びに写生のため、來県した。一行は 10 日知多郡亀崎町に来て、県社神前神社付近を写生、11 日武豊町で衣ヶ浦の風光を、12 日愛知県呼続町付近の所謂桜田の視察、翌 13 日碧海郡旭村矢作川河口を写生した。

4 歌碑

上記の通り、県内には大嘗祭の歌碑が 9 基ある。その内、棚尾にあるものは次の歌碑である。二代目棚尾橋記念碑と同じ石垣台内に据えられている。以前は東の矢作川堤防下にあったが、昭和 44 年頃、農業用碧南用水路工事に伴ない現在地へ移動した。

(表面) 矢はき川 弓はり月の かけさして きよきなかれに 千鳥なくなり
正二位 源 清綱

(裏面)

建立年月 昭和 4 年 1 月 10 日
建碑者 長崎重治 永坂榮太
三島条二郎 全 常助
杉浦喜市 永井治郎平
全 安吉 永井米次郎
清水榮十

(所在地) 志貴崎橋東たもと 舟江町 2 丁目 (棚尾橋記念碑前)

5 歌軸

所蔵 八柱神社に悠紀地方風俗歌屏風の歌 4 首が、1 首 1 幅ずつ、計 4 幅の歌軸が保管されている。

三河尾張名所 黒田清綱先生歌軸

大正天皇御即位御大礼大嘗祭 點定尾三名所和歌四首 師黒田先生之筆四幅

昭和 8 年 4 月 悠斎謹書 千筐 棚尾八柱神社蔵

6 参照文献

「悠紀斎田記録」発行：愛知県 大正 5 年 3 月 25 日

「六ツ美村誌」発行：六ツ美村是調査会 大正 15 年 12 月 1 日

「岡崎市六ツ美西部学区・ふるさと読本」発行：ふるさと読本編集委員会 2009 年

「悠紀斎田 80 周年記念誌」発行：悠紀斎田保存会 平成 7 年 6 月 4 日

「愛知の文学碑」発行：(株)愛知県郷土資料刊行会 著者吉田弘 昭和 54 年 5 月 15 日

「碧南いしぶみ集」碧南市文化財第 8 集 発行：碧南市教育委員会 平成 5 年 1 月

「八柱神社と棚尾の歴史」碧南市文化財保護審議会 平成 21 年度

「棚尾町役場高札舎」

1 要旨

大正 13 年（1924）に棚尾村が棚尾町になった。翌年、役場が源氏町から汐田町（現在の公民館の地）に移転した時に、役場の公報等を掲示するために、正門の横に南を向いて建てられた。昭和 23 年（1948）棚尾町が碧南市になり役場は廃止され、同 25 年棚尾公民館になったが、高札舎はその場に残され、その後、公民館の建替えなどで現在の位置に移動した。

今も、高札舎の隣に並んで残っている役場正門の石柱には、棚尾町役場の名板と大正 14 年 8 月建立の刻字を見ることができる。

2 役場建設工事

(1) 竣功式における工事報告文

町会の決議に基づき当町春日に位置を定ム

此 坪数 709 坪

此 代金 6,079 円 89 銭

工事設計は本県大矢技師指導セラル

大正 13 年 10 月 29 日起工シ大正 14 年 8 月 31 日竣工ス

建坪総坪数 97 坪 8 合

総工費 2 万 7,800 円

工事請負人 基礎工事 本町 石川驥一

建造物 本町 小塚梅吉

〃 黒田亀三郎

〃 杉浦喜市

右 報告候也

大正 14 年 11 月 3 日 棚尾町長

(2) 愛知県への役場位置変更ノ件申請

本町役場道路改修ノ為、左の通位置変更ノ件許可相成度別紙議案書写及略図添付申

請是成

大正 13 年 6 月 27 日

碧海郡棚尾町長 小笠原半兵衛

愛知県知事 山脇春樹殿

所有区分竣功予定期日

一 役場敷地

本町字善明 126 番、127 番、128 番、129 番、130 番 1

但右敷地ノ内、126 番地ハ借地トシ其他ハ大正 13 年 6 月 13 日買収議案済
目下手続中

二 竣功予定期日

大正 14 年 3 月 31 日

記

旧位置 棚尾町字加須 27 番地

新位置 棚尾町字善明 126 番地 127 番地 128 番地 129 番地 130 番地 1

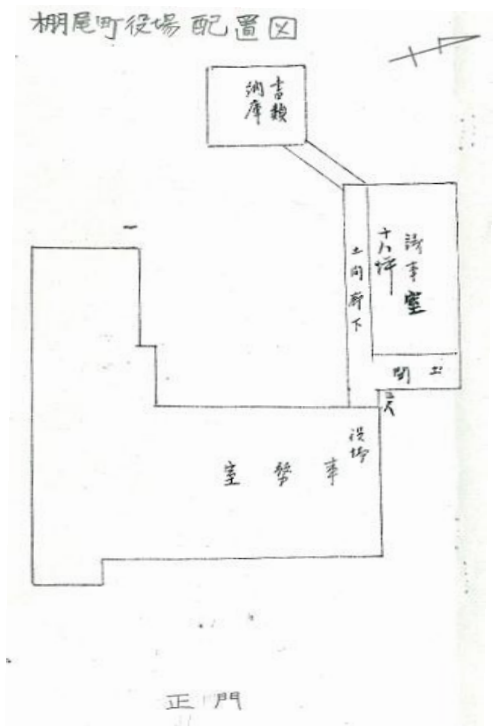
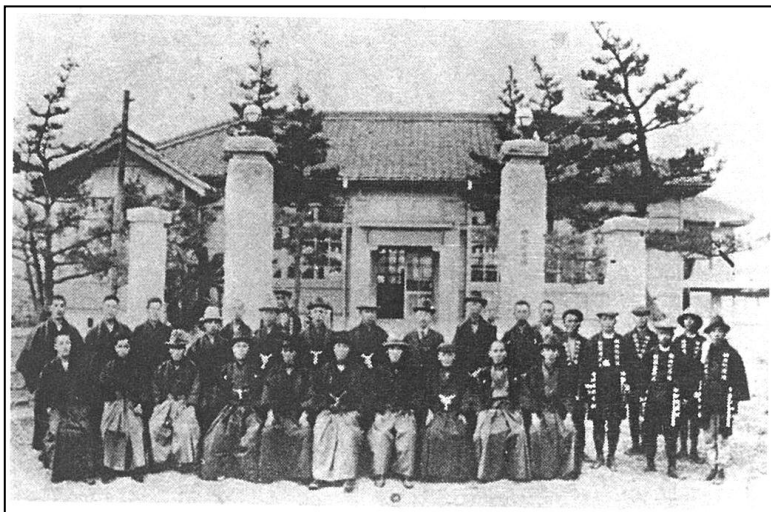
理由

道路改修ノ為、本町役場庁舎建坪 28 坪 3 合 3 勺ノ内 8 坪 3 合 3 勺併セテ敷地
134 坪ノ内、29 坪 7 合 9 勺ヲ切り取ルノヤムヲ得サルニ至リ大ニ狹隘ヲ来シ
不便少カラサルニ依リ現在位置ニ之ガ拡張スルニ於テハ多額ノ経費ヲ要スル
ヲ以テ茲ニ位置ヲ変更セントスル所以ナリ

(3) 石門工事

請負人：永坂和市 請負金：金 300 円

【大正 14 年の棚尾公民館写真（下写真）、配置図（右図）】



【昭和25年に開館した柵尾公民館】



3 市民遺産

平成20年に碧南市民遺産を制定した時、この高札舎も登録された。

【現在の柵尾公民館】

